

---

# 桃李の下で、君を待つ

夕凧 遼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

桃李の下で、君を待つ

### 【Nコード】

N3186Y

### 【作者名】

夕凧 遼

### 【あらすじ】

すべての事象には、始まりと終わりがある。

それは、始まりがあるから終わりがあるのか、それとも終わりがあ  
るから始まりがあるのか。

これは、終わりしか知らない神と始まりしか知らない神が綴りゆく、  
終わりから始まる物語。

## 君が望む永遠、僕が生きる刹那

いちばんはじめの始まり　そこには混沌と、唯一つの生命が存在していました。

全ての源たる混沌の中で、生命はある時、己が何者であるのか疑問を抱き、問うことにしました。

しかし唯一であるが故、その疑問に答えるものはいません。

その事に気づいた生命は、それならばと己が身を二つに分け、答えるものを創り出しました。

『他』を得た生命はそこで初めて己を知り、分かたれたものと共に大いに語り始めます。

互いに問いかけ、互いに答え……やがてそれは世を創り、世は界を育みました。

こうして『世界』は、混沌の中にその存在を現したのです。

しかし出来上がった世界は理を持っておらず、ひどく不安定な存在でした。

ともすれば混沌に飲まれそうになる世界を、彼らは常に気に向け、何とか出来ないものかと思案していた　その最中<sup>さなか</sup>。

自分達が混沌の中で存在していることに気づいた彼らは、自らの分身を世界に与え、それらに世界を維持する役目を負わせました。するとどうでしょう。

世界は瞬く間にその容貌を確立させ、確固たる存在となつた世界を彼らはとても慈しみました。

けれど何かがありません。

ある時、彼らは思いつきました　生命に『終わり』と『始まり』を与えてみよう、と。

彼らに与えられた『終わり』と『始まり』によって生命は次なる生命を生み、巡り始めたそれは理を紡ぎだし混沌をはねのける力となりました。

そして彼らもまた世界へ降り、自ら役目を負いました。

『始まり』 すなわち創造を負ったのは赤い瞳のカーネリア

『終わり』 すなわち破壊を負ったのは碧い瞳のローライト

斯くして時は穏やかに、緩やかに流れていきました。

その中で、彼らがお互いの背負うものに興味を抱いていったのは、必然とも言える流れでした。

何故ならそれは、自らが決して持つことのできないものだから。

かつてのように己の内にある答えだけでは、語り合うことは叶いません。

それは彼らが繋がれないということ。

ひとつだった彼らは、いつの間にかひとつ同士となっていたことに気がつき、やがてお互いを求めあうようになりました。

けれど、カーネリアが創造を示せば、ローライトはそれを破壊してしまい、ローライトが破壊したものを、カーネリアは創造することしかできません。

お互いを知ろうとすればするほど、分からないことが増えていきます。

世界を支える柱である彼らの交わりは、周囲を覆う混沌との境界線を曖昧にさせ、時には奪い合うように繰り返される創造と破壊は、世界の構造さえも変えてしまいました。

当然、変化したことで役目を失った生命は消えていき、荒んだ世界を見て彼らはようやく知りました。

自分達は求めあってはいけないのだと。

しかしもう一度世界を創ることはできません。

そこで彼らは、生き残った力ある生命に再び役目を与え、世界を『元の姿に戻した』のです。

そうして消えていった生命は甦りましたが、もう役目を負えるだけの力は残っておらず、そこに『力ある者』と『力なき者』が生まれました。

違いすぎる両者が共に暮らせるはずもなく、力ある者はなき者を脅

かし、力なき者はある者を羨み、妬みました。

それは世界の調和を乱し、歪みをもたらしました。

あまりにもたくさん力なき生命を憂えたカーネリアは、同じくあまりにも歪んだ世界を嘆いたローライトと共に、それらに『役目』ではなくある役割を負わせました。

ローライトの姿に似せた生命には『男』という役割を。

カーネリアの姿に似せた生命には『女』という役割を。

両者が交わることで次なる生命を生むという仕組みを創りました。

自分達が遂げられなかった想いを託すように

そして彼らは最後に『言葉』を授けました。

自分達と同じ過ちを繰り返させないために、違うもの同士が解り合えるように。

斯くして力なき者と力ある者の暮らす世界は隔てられ、両者を繋ぐ扉はかたく、かたく閉ざされました。

ただ、平和を願って。

すべてを終えたあと、カーネリアは片割れに言いました。

『愛している』と。

ローライトも片割れに言いました。

『私も愛している』と。

カーネリアは涙を流し、白銀に煌めく剣を取りました。

『私はこの愛を以てあなたを殺し、世界を創造する。これは私の罪であり、あなたへの罰だ』

ローライトは薄く笑いました。碧く透明な瞳に柔らかな光を湛えて。

『それでいい。私はあなたの罪を許しはしないし、罰を受け入れはしない。この愛を以て永遠に壊し続けよう……あなたが創造する限り。それが私の戒めだ』

お互いの心を独占できるのは、永遠にお互いだけなのだ、それは誓い合っているようでした。

カーネリアの剣が片割れの心の臓を深く貫き、白銀の刃が深紅に染まっても、彼らは悲しくはありませんでした。

何故ならこれはさよならではなく、また会うための約束だからです。抜け殻となった片割れの体をきつく抱きしめ、カーネリアは最期の愛を込めて口づけを落としました。

すると、ローライトの抜け殻は目を開け、起き上がりました。

カーネリアは驚きましたが、二度も刺し貫くのは忍びなく思ったのか、生き返ったそれを新たな種としてつがいと共に地上に放ちました。

ただ、安寧であれ、と。

万感のその祈りを結び、旋律は重なりやがてやがてそれは、物語を紡ぎ始めました……

**君が望む永遠、僕が生きる刹那（後書き）**

読んでくださり、ありがとうございます。

## 第一節

約束された『終わり』は迎えられた。

そして 幾度目かの『始まり』が訪れる……

とても、とても静かな夜だった。

月光の差し込む執務室はいつにも増して静謐に満たされ、書き物をするペンの滑る音だけがやけに大きく響いている。

その静寂の中で、窓近くの壁に背を預けた男は何かに気づいたように面を上げ、視線を窓の外に向けた。

その瞳が、驚きに見開かれる。

「…ユキ、見てみる」

ペンを走らせる音が止み、ユキと呼ばれたもう一人の男は書類から目を離してそちらを向いた。

そして、空を見上げたまま険しい表情を崩そうとしない男の様子から、ただならぬものを感じ取った彼は、執務机から視線をたどり、黄昏色の瞳を細めた。

「月が、赤く染まっていく……」

そう、それは『終わり』の『始まり』を告げる凶兆。無慈悲なる神の託宣

「禍月<sup>まがつき</sup>だ。来るぞ」

心を引き裂くような 慟哭が木霊した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3186y/>

---

桃李の下で、君を待つ

2011年12月4日01時45分発行